

めんどくさがり奏者が

スキマ時間の5分で読める

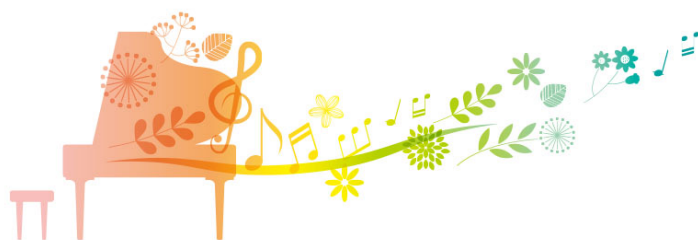


譜読みが
楽しくなる
楽典超入門

NAOKO ARIYOSHI

聴く耳育成協会

目次



はじめに	p.3
楽譜が読めるって何？	P.4-5
感性を磨くアナリーゼ	p.6-7
アナリーゼのための楽典	p.8-10
平均律と純正律	p.11-12
拍子は小節が区切りじゃない	p.13-14
音程にも意味がある	p.15-17
フレーズの行き先を調べるには	p.18-19
調を見分けるコツ	p.20-22
おわりに	p.23-24

はじめに

このメール講座登録特典のプレゼント冊子では

- ・ 指揮者が何を言っているのかわからない
- ・ 理論に詳しくなった方が良さそうだけど
改めて学ぶのは面倒くさい
- ・ 隣席の理論に詳しい人に口出しされて困っている

そんな演奏年数は長いけれどいつまでも
自分の演奏に自信をもてないプレーヤーが
「譜読みって楽しい！」
と思えるようになるためのヒントをご紹介します。

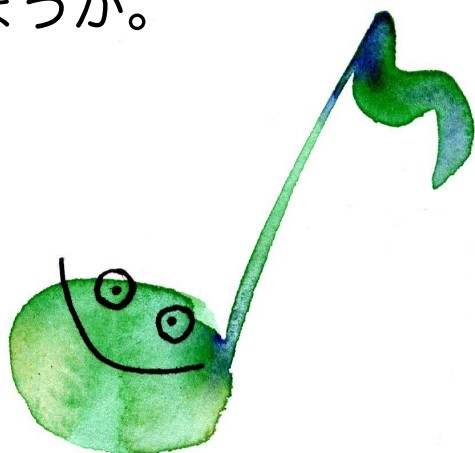
音楽理論コンプレックスを
すっきり解消して
これからの音楽ライフを
もっともっと充実させる
きっかけにしてくださいね！



楽譜が読めるって何？

「譜読み」と聞くと
どんなことを思い浮かべるでしょうか。

もしかしたらおたまじゃくしを
ドレミとして認識できること、
というイメージの方が
多いかもしれませんね。



でもこの冊子を手にとった方は
ただ単に音を羅列するのが譜読みではない
と知っているからこそ、
楽譜の読み方をちゃんと学びたいと
思ったのではないのでしょうか。

まさにその通り、
譜読みをするというのは
並んだドレミの行間から
どれだけ作曲者の意図を汲み取れるか
ということなのです。



例えば子供に絵本を読み聞かせする時、
鬼が出てきたところで陽気な雰囲気にしたたり
ハッピーエンドなところで悲しげにしたり、
そんなトンチンカンな抑揚は
つけないでしょう。

音楽も同じです。

作曲者が
楽しい雰囲気にしてほしい、
悲しく聴かせたい、
その他どんなニュアンスで
演奏してほしいと思っていたのかを
ドレミの並びから読み取るのが譜読みです。



ただ単に速くドレミの並びを認識できて
「初見が得意！」
なんて思っているだけでも行間のニュアンスが
読み取れていなければ全然無意味。

せっかくなら音の並びからその意味を読み取って
言いたいことの伝わる演奏をしたいものですね！

感性を磨くアナリーゼ

ドレミの並びを見てその行間から
ストーリーや作曲者の意図を読み取る譜読み、
その方法を理論としてまとめたものが
楽譜を分析するアナリーゼです。



アナリーゼが出来るようになると
楽譜から読み取れる情報は
格段に増えるのですが、
効果はそれだけではありません。

何となくの雰囲気とイメージで演奏していると
どの曲も似たような歌い方になってしまい
ワンパターンな表現になるのを
経験したことはありませんか？

自分の感性だけを頼りにしては
あっという間に
表現のためのアイデアは
枯渇してしまいます。



そこで、歴史に残る数々の作曲家たちの
アイデアや感性をお借りするのです。

歴史に残る数々の作曲家たちが
感じたり表現したかったこと全てに比べて、
自分一人の感性だけでそれに対抗できるくらい
豊かな表現の幅を持っていると言い切れる人は
きつといないでしょう。

楽譜には作曲家たちの頭の中にあった
豊かな音楽がたくさん書かれていて、
それを読み取るための方法がアナリーゼなのです。

たくさんの偉大な音楽家からアイデアを借りて
どんどん広げていった表現の幅は
あなたの音楽の引き出しと感性を豊かにし、
これからの財産になっていきますよ！



アナリーゼのための楽典

楽典は楽譜に込められた作曲者の想いや
豊かな音楽を読み取るアナリーゼのための基礎。

英語の本を読みたければ
アルファベットが判別でき
単語の意味がわかって
文法を知る必要があります。



このアルファベットが判別できるのは楽譜で言えば
音符がドなのかしなのかわかること。

そして次にアルファベットを単語としてとらえ、
その意味を理解するためのものが楽典です。



「この音のまとまりは
こういう働きの和音だな、
こんな役割の調だな」
とわかることが
単語の意味を知ること。

そしてさらに単語の意味がわかったら
今度は単語の集まりを
文章として読むための文法が必要になります。

「この和音がこの場面で出てきたってことは
ちょっと切なくしたいのかな、
光が差した感じにしたいのかな？」
という風に読み解くのがアナリーゼ。

つまりアナリーゼまで出来て初めて
楽譜という文章に込められた
意味がわかるのです。



「吹いてみたら何となく雰囲気はわかる」

というのは知らない外国語で話しかけられて
相手が怒ってるのか喜んでいるのかわかる、
という程度のことで本当に言葉の意味が
わかってるわけではありません。

そんな大雑把で雑な解釈をして
楽譜を読んだ気になってもダメ。



まずは楽典が理解できてから
楽譜という物語本に
何が書いてあるのかを読み解くアナリーゼに
踏み込むことができるのです。

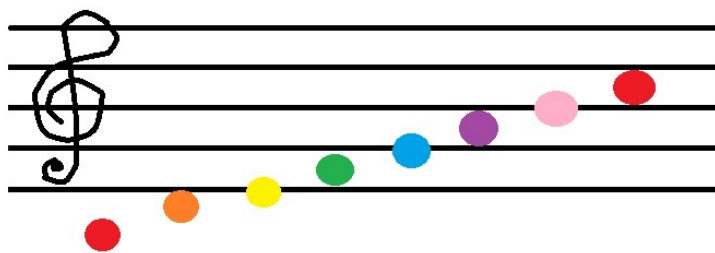
まずはその準備として
それぞれの和音がどういう意味なのか、
フレーズの流れが何を意味するかという
「単語」の部分を理解する楽典を
一緒に学んでいきましょう！



平均律と純正律

音楽理論書でよく出てくる平均律とか純正律、これって一体どういう意味なのでしょうか。

平均律は言葉の通り、オクターブを12個に均等割りした音程で作られている音階。



反対に純正律はハーモニーが一番きれいに響くように音を多少高くしたり低くしたりといった微調整をしている音階です。

管弦楽器のように一音ごとに高さを微調整できる楽器で使われるのは主に純正律です。



「それなら純正律だけを
使えばいいじゃない」

と思うかもしれませんが、
実はそうもいかないのです。

なぜかというと純正律はひとつの調で
きれいに響くよう音程を微調整しているので
他の調になった途端めちゃくちゃに
濁ってしまうから。

つまり転調に弱いのです。

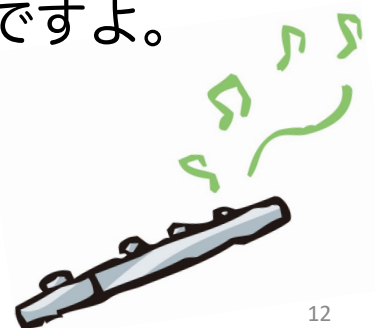
ピアノやチェンバロやマリンバなど
毎瞬毎瞬ハーモニーごとに
調律し直すことのできない楽器では、
それほどきれいには響かないけど
どんな調で演奏してもそれなりに許せる程度の
濁りで済む平均律が必要になります。



演奏するときにはどれくらい響きの濁りを
良しとするかというところで関わってきます。

ハーモニーをきれいに重ねる方法として
第三音を上げ下げするなどよく耳にしますが
それもこの純正律と関係しているのですよ。

知っているアンサンブルも
上手くなってしまいますね！



拍子は小節が区切りじゃない

次に拍子について。

拍子というのは勘違いされていることが多いのですが、実は1小節の中にいくつ音が入っているかということではありません。

「え？ どういうこと？」
と思うかもしれませんね。



音楽の中にはたとえ小節線がなかったとしても、周期的に他よりも強く感じられる拍というのがあります。

それが楽譜のどこにあるのかを示すのが小節線。



小節線の直後に書かれている拍が作曲家が周りより強く感じてほしいと思って書いた拍なのです。

これがいわゆる「強拍」ですね。

そしてその強く感じられる拍は
そこに向かっていく盛り上がりの拍と
エネルギーが収束していく拍に
取り囲まれています。



拍子は1小節が1まとまりではなく、強拍を取り巻く
盛り上がりから収束までが1セットなのです。

弱拍というのは単に強拍より弱いというだけでなく、
その中には向かっていく拍と収束する拍があります。

それを知らないでぼんやり演奏すると、
もたついたりのんびんだらりとしてしまいがちですが、
知っていれば音楽の推進力が
格段に上がっていくもの。



そんな拍の読み方の
基本を知ってから、
楽器で音を出しつつ
楽典の本に載っている
練習問題を実際に進めていったら

「楽譜がすごくよくわかって演奏が立体的になった」
という方はとても多いのです。

音程にも意味がある

ここでの音程はピッチ合わせのことではなく
二つの音の距離のこととしてお話します。

楽典の中では

「長三度」とか「完全五度」とか
音程についている名前を
調べる項目があります。



これはただ単に名前があるから覚えましょう
というものではありません。

意味もなく名前の暗記なんてしたって
役には立ちませんからね。

これは知っておくと
音程についた名前から
明るいのか陰りがあるのか
その他様々な響きの印象を
イメージできる便利な考え方なのです。



音符の組み合わせからそれらがわかれば、
いちいち楽器で音を出さなくても
楽譜を見ただけでフレーズの雰囲気やニュアンスを
読み取ることが出来るようになってしまいます。

忙しい社会人は音出し時間の確保に苦勞するでしょう。

せっかく確保した貴重な時間は
楽譜を見ただけでわかることを
わざわざ確認するために使わないで
もっと有効に活用した方がずっと良いですね！



では具体的に音程の名前でどんな風に
ニュアンスの違いがわかるのでしょうか。



基本的には

長音程→明るい

短音程→陰りがある

完全音程→透き通っている

増減音程→濁っている

必ずしも全てに当てはまるわけではありませんが、
ざっくりこんな風に考えておくと
いいかもしれません。



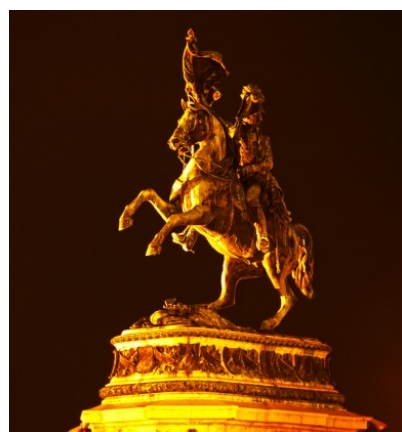
例えば長三度は明るい、
完全五度は透き通っている、
という感じでこれは和音にも通ずる見方なのです。

どうして完全長短増減の種類があるのか、
三度・四度の響きの特徴など細かいところも
これから届くメール講座で解説しているので
どうぞお楽しみに♪

フレーズの行き先を調べるには

A-durとかes-mollとか名前がついている「調」、
これって実際演奏するときに
やはりわかっていた方がいいのでしょうか。

Es-dur（変木長調）が英雄の調とか
G-dur（ト長調）が春の調
などと言われているように、
作品の雰囲気左右するものなので
今吹いているのが何調なのかは
やはりわかっていたいものです。



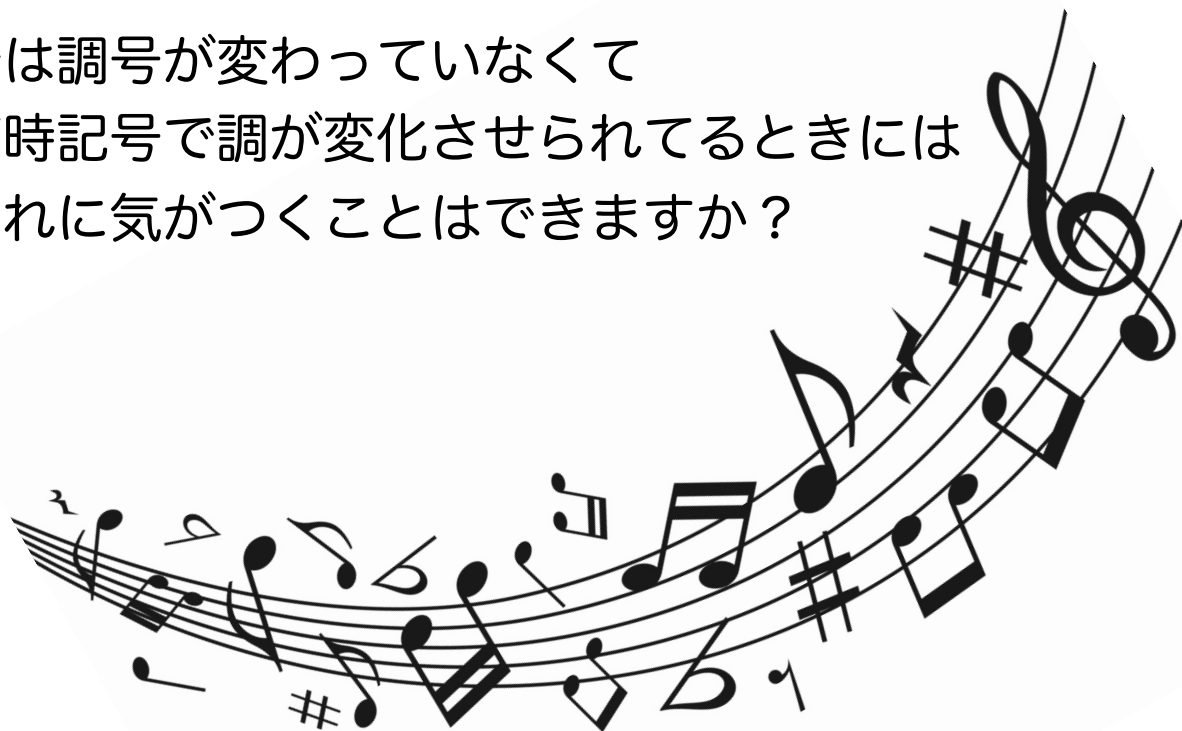
それに調がわかるということは
フレーズ最後の解決するときに聴こえるとホッとする
ゴールである「主音」がどの音だかわかるということ。



つまり旋律の行き着きたい先が
どこなのか読み取って
歌い回しを自分で考えられる
ということでもあります。

もちろん楽譜にシャープやフラットとして
調号があれば何調なのかは一目瞭然でしょう。

では調号が変わっていなくて
臨時記号で調が変化させられてるときには
それに気がつくことはできますか？



楽典の本の中ではその調を把握する方法を
「調性判断」といって丁寧に取り上げています。



調号に頼らず調を見分けるのには
いくつかポイントがあるのですが、
ここでは一つだけご紹介しましょう。

調を見分けるコツ

曲の中にはその調性本来の音と、
調性本来の音を飾っているオマケの音があります。

調性本来の音とオマケの飾りが見分けられたら
オマケについているシャープやフラットは
無視して考えるのです。

例えばこんなフレーズがあるとしみましょう。



この中でBの音（Hではなく）は次にひとつ低い音へ
進むために推進力を持たせる飾りです。



だから調性を調べるときに
このフラットが調号であるとは考えません。

「シにフラットがついてるからF-durだ！」
という安易なものではありません。

他にも色々なコツがありますが、
たとえば前ページのように音階本来の音なのか
それともただの飾りなのかを判断できると、
音階に含まれる音が何なのかがわかります。

そうすると今吹いているのが何調なのか
ということが見分けられるでしょう。



「音階の音がどれなのかわかってても
何調かは全然わからないよ！」
という場合も楽典の中でちゃんとその調べ方が
学べるので大丈夫。

楽典はまさに読譜の基礎ですね！

こんな風に調性には色々な条件があって
それを踏まえて分析すると
見分けられるものですが、
通常プロの奏者は
楽譜を一目見ただけで
その部分が何調かわかるくらい
調性判断には慣れているもの。



それは受験時代から積み重ねてきた
楽典やアナリーゼの知識と経験によるものです。



パッと見て何調なのか
判断する様子は簡単そうで
いかにも才能があるように
感じられるかもしれませんが、
それは「何となくそんな感じ」
というあやふやで
感覚的なものではなく
努力して身につけた
スキルなのです。

おわりに

一見簡単そうに吹いているように見える
上手なプレーヤーや指揮者やトレーナーだって
決して才能とかセンスに頼って
何も努力してこなかったわけではありません。

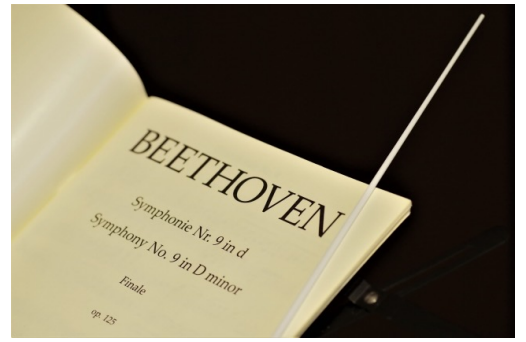
だからもしもあなたが今まで音楽を専門的に
勉強してこなかったとしても努力次第で
演奏のためのスキルはこれからいくらでも
身につけることができますよ！

まずはベイベーステップ、
小さな一歩を踏み出すのかどうか。

踏み出した人は
どんどん上達していくし
踏み出さない人は
ずっと同じところに
留まり続けるだけ。



年数を重ねるごとに
楽譜から見えるものが増えて
音楽に深みが増していくって
素敵なことじゃありませんか？



それは楽譜の読み方を知らずに
ただ年を取っただけで勝手に見えてくるのではなく
それまでに積み上げてきた努力の成果です。

そんな無限の楽しい可能性を手に入れる鍵が
楽典には詰まっています。



明日から届くメール講座で
あなたの音楽ライフの
新たな扉を開いて行って
くださいね！

どうぞお楽しみに♪

メール講座

～スキマ時間で確実に上達する～

【管楽器プレイヤーのための練習テクニク】

https://open-eared.com/mail_course/

著者紹介／有吉尚子



1982年栃木県日光市（旧今市市）生まれ。
小学校吹奏楽部にてクラリネットに出会い、
高校卒業後19才までアマチュアとして活動する。
20才のときに在学していた東京家政大学を中退し音大受験を決意。
2003年洗足学園音楽大学入学。在学中から演奏活動を開始。

オーケストラや吹奏楽のほか、CDレコーディング、イベント演奏、テレビドラマBGM、
ゲームのサウンドトラック収録など活動の幅を広げ2009年に洗足学園音楽大学大学院を修了。
受講料全額助成を受けロシア国立モスクワ音楽院マスタークラスを修了。
及川音楽事務所第21回新人オーディション合格の他、コンクール・オーディション等受賞歴多数。
NHK「歌謡コンサート」、TBSテレビドラマ「オレンジデイズ」、ゲーム「La Corda d'Oro
（金色のコルダ）」ほか出演・収録多数。
これまでに出演は1000件以上、レパートリーは500曲以上にのぼる。

演奏やレッスン活動をするうちに基礎を学んできていないためにコンプレックスを抱え悩んでいる
奏者がとても多いことに気付き、プロ志望でなくても本格的に演奏を学べる場所の必要性を痛感。

音楽大学・大学院の修了後に改めてソルフェージュや音楽理論、アレクサンダーテクニークを学び、
演奏技術だけでなく作品の解釈や練習の組み立て方、本番に向かうメンタル面のコントロールな
ど実際の演奏に結びつけながら総合的に身につけることの大切さを実感したことを活かし
「聴く耳育成メソッド」を立ち上げる。

レッスンや講座は「楽典は読んだことがない」「ソルフェージュって言葉を初めて聞いた」という
アマチュア奏者でもゼロから楽しく学べ、確かな耳と演奏力を身につけられると好評を博している。
これまでに延べ1000名以上が受講。

「ザ・クラリネット」（アルソ出版）、吹奏楽・管打楽器に関するニュース・情報サイト
「Wind Band Press」などに記事を寄稿。

現在オーケストラやアンサンブルまたソロで演奏活動のほか、レッスンや執筆、
コンクール審査などの活動も行っている。クラリネット奏者。聴く耳育成協会代表理事。
BODYCHANCE認定アレクサンダーテクニーク教師。音楽教室N music salon 主宰。

聴く耳育成メソッド

長年の経験はあるけど自分の音楽に確信が持てない、
努力はしているのにプロとは何かが違う・・・
そんなアマチュア奏者が、
レッスンの先生や指揮者に頼り切りにならず
自分で音楽の方向性や歌い回しを考え思い通りの音楽を
自信を持って表現できるようになるのためのレッスンです。

楽譜から音符の並びだけでなく
作曲家が込めた想いを読み取る方法を学ぶ
「楽典&アナリーゼ」

楽器演奏をより快適に効率的にするための
心と身体の仕組みと使い方を知る
「アレクサンダーテクニーク」



音楽的な耳の使い方とはどういうものかを知って
より良く音でのコミュニケーションを取るための
「ソルフェージュ」

という演奏の基礎スキルである3本柱を
まとめて学ぶ機会を提供しています。

まずは無料のメール講座で学んでみてくださいね！

メール講座
～スキマ時間で確実に上達する～
【管楽器プレイヤーのための練習テクニク】

https://open-eared.com/mail_course/



第一版 2020年04月01日発行

著者 有吉尚子

発行所 聴く耳育成協会

〒166-0003東京都杉並区高円寺南2-37-14クレシェンド高円寺403

(販売・ライセンスについてのお問合せ)

info@open-eared.com

本教材、および収録されているコンテンツは、
著作権、知的財産権によって保護されていることはもちろんですが、
購入・ダウンロードされたコンテンツは、
あなた自身のために役立てる用途に限定して提供しております。

教材に含まれているコンテンツを、その一部でも、
書面による許可（ライセンス）なく複製、改編するなどして、
またあらゆるデータ蓄積手段により複製し、
オークションやインターネット上だけでなく、
転売、転載、配布等、いかなる手段においても、
一般に提供することを禁止します。

引用、転載、教育を希望する場合には
別途ライセンス契約が必要となります。